

《浅倉むつ子先生を送る言葉》

浅倉先生への感謝の言葉

Farewell Message for Professor Asakura Mutsuko

私のはじめて浅倉むつ子先生にお目にかかったのは2003年12月に、早稲田大学でジェンダー法学会の創立総会・創立記念シンポジウムを行った際でした。先生の第一印象は、いつもニコニコしており、笑顔がとてもさわやかな方だということでした。ジェンダー法学会の設立に際して、私は二宮周平さん(立命館大学特任教授)に頼まれて、理事になることと、会場・懇親会などを担当することになりました。普段から人をお世話するより、人にお世話してもらうことの多い私には、かなり荷の重い役割であり、十分に責任を全うできるか心もとない限りでした。幸い、ジェンダー法学会はさまざまな分野の研究者・実務家が多数加わってくださり、ようやく船出をすることができましたが、会場の設営・懇親会の会場等では予想通りいろいろな問題も生じました。しかし、会場の整理・後片づけで遅れて参加した懇親会の席上、浅倉先生は真っ先に私たちに駆け寄ってくださり、「棚村さん、本当にご苦労様。」「ありがとう。」と私たちを温かく労ってくれました。浅倉先生は、配慮の素晴らしい本当に温かい先生だと痛感いたしました。

その浅倉先生には、2004年4月から、早稲田大学大学院法務研究科の教授として来ていただけることになりました。ロースクールでは、講義科目としての「ジェンダーと法」、臨床法学教育科目(実務科目)として「家事・ジェンダー法」などでご一緒させていただくことになりました。クリニック科目の「家事・ジェンダー」は、実務家教員と研究者教員がペアで指導監督しながら、複数の学生が法律相談を行い、相談結果の回答まで行うという実践形式の授業で

あり、当初はたくさんの受講生が集まる人気科目でもありました。浅倉先生と私は研究者教員として参加しており、他に弁護士さんの実務家教員と一緒に学生の皆さんを指導したり助言したりする役割でした。浅倉先生は、相談者はもちろんのこと、相談に当たる学生たち、他の教員にも気配りを忘れず、その緊張や不安を取り除き、安心させてくれる不思議なオーラがあり、感極まって泣き出す相談者に対し優しい言葉をかけてくれていたことが忘れられません。

そのような早稲田大学での教員として同僚になった後も、浅倉先生にはいろいろとお世話になりました。早稲田大学は1999年4月から、セクシュアル・ハラスメント防止ガイドラインを制定するとともに、学内での教育・啓発・調査研究・苦情相談・問題解決・予防などに取り組む全学的な委員会を立ち上げました。2004年4月からは、浅倉先生にもセクシュアル・ハラスメント防止委員会・情報委員会にも所属していただき、とくに重大な事案での事実確認や懲戒処分などのお仕事をお願いしました。まだまだ各種ハラスメントへの教職員や学生たちの理解が十分でなく、教育や予防が大切であるという認識から、新任教職員や学部教授会などでの研修などに力を注ぎましたが、浅倉先生はその先頭に立って穏やかにお話をしてくださり、早稲田大学でのハラスメント防止体制を築くうえで、大変なご貢献をいただき感謝しております。もっとも、現在においても、ハラスメントの深刻な相談や重大事案はなくなっておらず、浅倉先生には引き続きご助言やご支援をいただきたいと思っています。

最後に、早稲田大学は、文部科学省科学技術振興調整費として、2006～2008年に「研究者養成のための男女共同プラン」を採択され、「女性研究者支援モデル育成」事業を実施することになりました。早稲田大学では、女性研究者の比率を上げ、男女共同参画の実現のため「男女共同参画委員会」を立ち上げ、女性研究者両立支援センターを開設するなど先進的な取組を進めるべく多額の補助金をいただきました。しかし、当時実施責任者を予定していた理工学術院の女性教員による研究費の不正使用が発覚したため、私に実施責任者の話が回ってきてしまいました。私は当該女性研究者自身の不正というより、大学全体の

浅倉先生への感謝の言葉

研究推進体制や研究者の支援が十分でないと大学を批判したため、総長をはじめとする当時の理事会が大学で採択された事業の推進のためにほとんど協力をしてくれないという異常な事態に陥りました。これを救ってくれたのが浅倉先生や清水敏先生（当時の人事担当常任理事）など、また学内の女性研究者のみなさんでした。今は、ダイバシティー推進室やワークライフバランス・サポートセンターなど、早稲田大学は当たり前のように全学的に男女共同参画や両立支援を進めていますが、その基盤を築いたのが浅倉先生をはじめとするジェンダー研究所の先生方であり、私たちはこのことを決して忘れてはならないと思います。

このように、個人としても、大学としても、浅倉先生には大変お世話になり、厚く御礼を申し上げますとともに、引き続き、私どもや大学に対するご支援やご助言を頂ければ幸いです。本当にありがとうございました。